

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立柏陵高等学校

自己評価					学校関係者評価		
学校運営計画(4月)				評価(総合)		自己評価は	
学校運営方針	国家・社会及び国際社会の有為な形成者として、自らの在り方生き方を自覚し、知・徳・体の調和のとれた、心豊かで、志をもって意欲的に学び、逞しい生き方のできる人間を育成する。			B		A : 適切である B : 概々適切である C : やや適切である D : 不適切である	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標					
昨年度はコロナ禍の中で休校や時差・時短登校等、教育活動を制限しながらも進学実績を向上させる等の成果をあげた。今年度は学力検査に拠る選抜方法に加えて、初の特色化選抜による本校で学ぶ意欲が強い生徒が多く入学している。また、新入生はICT活用やアクティブラーニング、観点別評価が義務教育段階から常であったことから、生徒を成長させるために本校の教育活動でもICT活用と生徒の主体的な活動を重視するとともに、適切に観点別評価を行うことが課題である。	生徒自らが考え、創造し、実践していくことを支援し、基本的な学習及び生活習慣の定着を図る。	ア 全教師が主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)とICT活用を実践する イ 総合的な探究の時間を中心としたキャリア教育の充実 ウ 「スコラ手帳」を活用したPDCAサイクル実践やポートフォリオ記録の継続					
学習・生徒・進路の指導において「鍛える」「褒める」「伸ばす」の視点を大切に、生徒の自発的行動を換気する。	ア 自主・自律による生徒の自発的な学習活動・生徒会活動を促す イ 外部資格・検定の積極的な受験によるキャリアアップ ウ 文武両道の推進、部活動への参加奨励						
	学校・保護者・地域との連携を強化し、「地域に開かれた学校」としての存在感を確立する。	ア 保護者・地域社会からの期待とニーズを収集して信頼獲得と魅力向上を実現する イ 広報誌やホームページに加え、SNSを積極的に活用して学校の魅力を発信する					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題		
教務課	生徒の学力の保障と学習習慣の確立	授業導入期に指導計画等をもとに予習復習の仕方や問題集等の使い方を徹底的に指導する	A	B	B	各教科、科目で徹底的に指導してもらっているので引き続きお願いしたい。	
		予習復習を計画的に実行させるとともに、課題等を厳選し提出を徹底させる	A			各教科、科目で徹底的に指導してもらっているので引き続きお願いしたい。	
		朝稽樹を通して自ら学ぶ態度や集中力の育成を図る	B			特に朝読書の必要性を生徒に訴えていきたい。	
		スコラ手帳を用い、生徒の自己管理能力の向上とPDCAサイクル実現を図る	B			引き続き、スケジュール管理能力をスコラ手帳を通して生徒に身につけさせたい。	
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	研修課と連携して授業改善の情報を発信し、アクティブラーニング等の生徒の活動の実施を向上させる	B	A		chromebookの活用により、よりアクティブラーニング型の授業展開が実践されやすくなった。	
		ICTを活用した授業の研究と実践を推進し、授業での実施を向上させる	A	A		少しずつICTを活用した授業が増えてきており、生徒の理解に繋がってほしい。	
新学習指導要領における本校カリキュラム・学習評価の実践	教科会及び教科主任会を定期的開催し、授業内容等を十分検討し授業改善を図る	新学習指導要領における新学習評価を円滑に実践する	B	B	ICTを活用した授業づくりのさらなる発展を各教科で検討してもらいたい。		
		拡大学年会を開くことで学年・教科等と連携し、成績不振者及び欠席や遅刻が多い生徒を早期に把握し指導を充実させる	A		各科目で、公平かつ統一的に評価が出来るように努める。		
			B		各学年で徹底的に指導してもらっているので引き続きお願いしたい。		
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見						
A	スコラ手帳の活用を充実することで生徒自身がPDCAサイクルを継続して自己管理能力を高めるよう創意工夫をすることが重要である。一人一人の人生を切り開く起爆剤となるような指導をお願いした。隙間時間の活用を促すことも必要であると思われる。 生徒たちには若いうちから読書に親しむ習慣を身に付けてほしい。読書活動の活性化を願う。 生徒が社会に出る頃には働き方ICTを利用したオンラインの割合が増えることが考えられる。高校にICT環境を整備するとともに、授業に積極的に取り入れることで、ICTに慣れ親しむとともに、学習への興味・関心を高めていただきたい。						

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
生徒指導課	学校組織としての生徒心得(校則)遵守の徹底(自己教育力の育成)	挨拶の励行(部活動生が中心となって行えるよう)、適切な言葉遣いの指導、話を聞く態度の指導	B	C	B	学年集会や登校指導、部活動集会を通じて、引き続き根気強く指導していく。 全職員で授業開始時に身だしなみを確認し、学校生活の中で制服の着こなしを見逃さず、その場で指導を行う。 重点課題であり、集会やHRを通じて全職員で取り組む。(遅刻指導等、教務と連携しての指導を検討) SNSを通じての人間関係のトラブルを予防する指導 全職の協力により登下校指導の実施 引き続き指導をしていく 月1回の学校生活アンケートを活用してトラブルの未然防止に努める 学校行事等を通じて主体的に取り組ませる 生徒会や交通安全委員などの各委員会が取り組みを考え実行させる。 定期的な部活動集会の実施とキャプテン・部長等に対してリーダーシップを育成するため外部指導者を活用した検討	B	交通指導を先生方が行うことで、学校をでてからの下り坂では自転車を押して歩くことが徹底されており、危険が回避できている。 それ以外の道路においては危険な自転車運転をする生徒が少なからず見受けられ、地域の方から苦情を聞くことがある。自身の身を守るためにも交通ルール遵守を徹底してほしい。 生徒の送迎のために車で来ている保護者が学校周辺に列をなして停車し、地域住民の交通の妨げになることがある。保護者への注意喚起が必要である。 生徒の自己肯定感を高めるためにも、生徒が主体となるような行事・部活動を望んでいる。
		SHR授業時間等全ての時間で全職員による身だしなみ(頭髪、服装)を整える指導(学校生活のあらゆる場面での個人指導)	B					
		時間厳守の指導(5分前行動の奨励)	B					
	危機管理能力の育成(SNSの適切な使用方法の指導、交通安全教育の充実と公共の場面での危機管理能力の育成)	携帯電話持込許可制とSNS柏陵ルールの遵守	B					
		自転車通学指導の実施、自転車安全点検の徹底 校内・校外でのマナーアップ意識の定着	B C					
		良好な対人関係の構築	B					
	生徒主体(生徒会)の活動の充実と部活動の強化	様々な学校行事への生徒の興味、関心の喚起	B					
		生徒会の主体的な活動の育成(各専門委員の活性化)	B					
		部活加入の促進(1年生仮入部の充実 部結成～5月27日迄)と部活動の充実(リーダーシップの育成)	B					
	進路指導課	3年間を見通した進路指導体制を確立し、学年の特性に応じた効果的な進路指導を行う	HR活動・総合的な探究の時間等における進路学習(進路行事)の企画・実施	B				
大学入試制度(総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜等)の活用方法、及び公務員・就職希望者に対する指導体制の確立			B					
『進路のしおり』の内容充実、『進路通信』を月に1回発行			B					
課外授業及び模擬試験の一層の充実を図り、生徒一人ひとりの進路希望を実現させる		各学年における効果的な課外授業(朝、放課後、土曜講座)、夏期・冬期講習の企画・実施	B					
		校外模試・小論文模試・看護医療模試・課題テストの実施と模試分析会等による事後指導の充実	C					
		自律したキャリア形成のために、自ら考え、学び、行動できる生徒の育成を図る	B					
研修課	職員研修の充実	職員の希望も踏まえ、指導に還元できる校内研修を企画・実施する。	B	B	B	保健課と共催の救急救命研修は、保健体育科の協力を得てよりよい形態に変更が叶った。 研究授業日を設けたことで、新しい視点を得たこと、次年度研修への課題を見つけることが出来た。 研究授業とICT研修を兼ねたことで、今後の指導に繋げる気づきを得ることが出来た。 ICT研修を全員参加ではなく、それぞれの習熟度に応じて設けたことで、各人の実態に合った研修を実施することが出来た。 校外での研修を校の研修へ還元するという点においては課題が残った。 人権学習を作る過程を変更して2年目となり、流れが定着してきつつある。 今年度は2組織から講師を招いたが、やはり昨年度と同じく1組織に絞って内容を依頼した方が適切である。 検討の方法を実態に合ったやり方に変更したことがよかった。原稿を再募集することは続けたい。	B	丁寧な生徒観察と生徒理解に努め、その情報を共有して、生徒にとってより良い指導を行えるよう、研修を実施して教員の資質を向上させることが重要である。 すべての職員が人権意識を向上させることで、生徒と保護者にとって安心な学校の雰囲気ができあがると考えられる。 世の中の多様性に対応できるよう教員の力量アップを望みたい。
		「主体的・対話的で深い学び」の実践指導に役立つ資料提供や外部研修案内を行い、校内職員研修を実施する	B					
		5・6月に相互授業参観期間、第2学期に研究授業学期を設定することで、教科内外の交流を通して、教科指導力の向上に繋げる	B					
	「主体的・対話的で深い学び」の実践指導の推進	各教科の研究授業において、ICTを取り入れた授業を実施し、授業内容及び検討会の内容を研究紀要に掲載し、課題の共有を図り授業改善へ繋げる。	B					
		「主体的・対話的で深い学び」の実践指導に役立つ資料提供や外部研修案内を行い、校内職員研修を実施する	C					
		校内における教職員の研修に努め、人権・同和教育についての理解と認識を深める	B					
	人権・同和教育の改善および充実	インターネットが関係する人権問題の増加に伴い、全学年を対象に講演会を実施する	B					
		「人権読み物」(月1回、年8回)を通して、人権感覚の育成を図る一助とする	B					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
保健課	生徒、職員の健康・安全に関する啓蒙活動の充実	生徒の健康情報の把握に努め、全職員と連携して健康で安全な学校生活を送れるよう支援する。	A	B	健康観察日誌等により生徒の健康情報の把握できた。次年度は行事ごとに健康情報の収集にも努める。 保健会への論文提出等、積極的に活動できた。来年度は保健委員会の定例化に努める。 引き続き危険箇所の早期発見・整備に努める。	B	コロナが収束傾向にあるとはいえ、長期間をコロナ禍で過ごした生徒のメンタルケアや人間関係の構築しづらい状況などに配慮して、難しい面も多々あると思うが、丁寧な対応をお願いしたい。	
		保健委員会活動の活性化を図り、全校生徒の保健・安全に対する意識の向上を目指す	B					
		校内安全点検を実施し、危険箇所の早期発見・早期整備を図る	B					
	校内美化と清潔な学習環境の整備	校舎内外の清掃の徹底を図るため、職員・生徒で積極的に清掃活動に取り組み、よりよい学習環境を整える	B	B				掃除の時間になったら監督場所で指導していただくよう、先生方に再度確認する。
		清掃用具の整備・管理、消耗品の使用方法について、継続的な指導を行う	B					1学期中に清掃用具の点検・整備を実施する。
		美化委員会の活性化を図るとともに、美化コンクール等を通して、校内美化活動を推進する	A					強化ポイント等を具体的に示すことで、より取り組みやすくなるよう工夫する。
	健康相談活動の充実	生徒が健康的に学校生活を送れるようSC、SSW等によるカウンセリングや特別支援の充実を図る	A	B				次年度は早期に必要な生徒の面談を実施する。
		教育相談会議を通して他分掌との連携を図り、職員全体の共通理解を徹底させる	B					引き続き他分掌との連携、職員全体の共通理解をはかる。
		専門機関、SC等、家庭との連携を密にし、迅速な対応ができるようにする	B					次年度もSC等の積極的な活用に努める。
総務課	(1)本校の教育目標を達成するため、各分掌・学年との連絡調整を行い、諸行事を適切に企画・運営する	諸行事を適切に企画立案し、その円滑な遂行に努め、学校の活性化に寄与する	A	B	臨機応変に対応できた。 教員間の協力で、表彰式を行うことができた。また、体育館で実施することができた。 気付くのが遅い場面もあるので、他の係とも協力していきたい。 分掌で連携し、円滑に進めることができた。	B	コロナ禍で式典や会議の多くが中止されたが、オンライン等を利用して開催できる形を作れたことは良かった。今後もオンラインの方がよい部分は残すほうがよい。	
		校内外の大会・コンテストを取りまとめ、表彰し、生徒の意欲を向上させる	C					
	校内施設・設備等の整備を進め、生徒・職員が生活しやすい環境の向上を図る	B	B	PTA、同窓会、後援会と連携できた。				
	PTA・同窓会・後援会の活動に協力し、連携に努める	A		協力して無事に終えることができた。				
	40周年記念に関する行事を円滑に実施する	B						
広報課	柏陵高校の教育活動の更なる充実・活性化に、広報活動の推進をもって貢献する	「学校案内」の内容・構成の充実をはかる	B	B	より魅力的なものを作成できるように努める。 次年度は発行回数、部数を増やして、中学生や保護者にこれまで以上に魅力や特色を伝える。 本校のイメージやアピールしたいものを厳選して、より良いものを作成できるように努める。 次年度も同様にSNSを活用して定期的かつ迅速に情報発信に努める。 時期や内容をさらに検証してより魅力あるものにできるように改善する。 次年度も参加できるものにはすべて参加して、本校の魅力をアピールできるように努める。	A	柏陵高校の公式ホームページやインスタグラム等のごまめな更新とタイムリーな情報発信は学校の状況を知ることができて非常に良かった。 柏陵高校を志願する中学生が増加したり、卒業生同士の連携がとれたりする効果も考えられるので、発展的に活用するのがよい。 地域へのPRにもつながるので、タイムルーにごまめな更新を望みたい。	
		広報紙「かしわんタイムス」を発行し、本校への興味・関心を高めるために、中学校、中学生、保護者、地域へ本校の魅力・特色を発信する	A					
		「学校紹介ポスター」により、本校の知名度・イメージの向上をはかる	B					
	広報活動を通して、中学校、保護者および地域との交流を深め、本校へのより一層の信頼を得つつ、志願者増加につなげる	HP・インスタグラムによる情報発信を定期的かつ迅速に行い、外部に対して最新情報提供し、本校への注目度を高める	B	B				
		学校説明会・体験入学の内容や運営を改善し、中学生や保護者に本校の魅力を十分に伝えられるよう取り組む 中学校や塾が主催する説明会などに積極的に参加して、本校の魅力を積極的にアピールする	B					
環境科学課	環境教育を基盤として、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に寄与できる人材の育成を目指すESD(持続可能な開発のための教育)を推進する	学校設定科目「SDデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」のプログラム、「油山」「和白山湯」「九重」「屋久島」「釧路・知床」のフィールドワークを実施する	A	B	野外研修の実施時期・内容を精査していく。3年間で探究力を身に付けられるようカリキュラム・評価規準を整理する。 他分掌と協力しながらSDGs学習を総探でも実施する。 探究型入試の評価規準に従ったポートフォリオを残していく。学習の振り返りをClassroomで記録し残していく。 環境教育学会で入選することができた。次年度は入賞数を増やしていく。 生徒による中学校訪問や、企業との協働授業を次年度も実施する。イベント時のマスコミへの取材依頼を積極的に行う。	B	環境に特化した特色あるコースであるとともに、SDGs教育に取り組んでおり、今後の発展が期待できる。 地域のボランティア活動に参加することは、生徒にとって貴重な経験となると思われる。今後も体験を積む機会を多く設定することが良い。 ここからスペシャリストが生まれることを大いに期待している。	
		「総合的な探究の時間」を有機的に結びつけたカリキュラム・マネジメントを確立する	B					
	学校推薦型選抜・総合型選抜に対応した学校設定科目「SDデザイン」・「総合的な探究の時間」のプログラムを確立する	B	B					
	新入試に向けて、ポートフォリオの記載を確立し、学校推薦型選抜・総合型選抜の面接・小論文・ディスカッション、プレゼンテーションに対応する	B						
	環境科学コースの魅力を発信する	各種コンテストにエントリーし、入賞を目指す	A	A				
広報課と連携し、中学校・塾訪問を強化する。企業・近隣の中学校と協働した学外での活動を積極的に行い、積極的にメディアに広報を行う	A							

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
第1学年	基本的生活習慣の確立・規律ある生活習慣の確立・豊かな人間性を育む	高校生としての自覚を持たせ、基本的生活習慣を身につけさせ、規則正しい生活をおくらせる	A	B	A	遅刻欠席を増やさないことを粘り強く、引き続き指導していくことが必要である。 多数の生徒は高校生としての自覚をもち、規則正しい生活を送ることができている。 日々の計画的、持続的、粘り強い教育活動により、生徒と教員の信頼関係を築くことができているため、引き続き、信頼関係を大切に築いていくことが目標達成に近づくと考えます。 考査前の学習については、意識して取り組んでいるようである。日々の学習においても、引き続き、授業と連動させたものとする中で、学習習慣の確立に努めたい。 朝かい樹の時間を利用して取り組ませた。 二者面談、アンケート後の面談等、非常に効果的に面談を行い、問題の事前把握や生徒の実態把握につながった。 1年次は卒業生の職業人講話、ちがいは講座を柱に様々なことを知るという時間を設けた。2年次には具体的な進路に踏み込んで進路学習させたい 太宰府地域探求やSDGsに関する学習などを行った。活動中は生徒も自己の在り方や他者への関わり方を学びながら学習を行うことができた。	A	高校生活の3年間で、どの時期に何をするのが良いのか、どれぐらい勉強するばよいかなど、進路実現のための具体的なストーリーを作り、順序だてて実行させていくような指導の工夫が必要。
		校則の遵守・挨拶・時間を厳守・清掃・言葉遣い・容儀など礼儀を重んじる基本的生活態度を育成し、規律ある生活習慣を	B					
		自己の内面的充実をはかり、心身ともに調和のとれた人間性豊かな生徒の育成に努める	A					
	見通しをもった行動・学習習慣の確立・読書の推進	基礎学力養成のために、授業以外で1日1時間学習する必要がある授業づくりを実践し、学習の習慣化で学習生活の充実・学力養成をはかる	A	A				
		読書に親しむ豊かな心を育てる	A					
		生徒の実態把握と生徒理解・進路選択への意欲向上・自己の在り方の探究	A	A				
進路情報を提供し、3年生までの進路決定の流れを理解させ、進路選択への関心を深めた上で、納得のいく進路(類型)決定をさせる	B							
総合的な探究の時間を活用し、お互いに学び合い、助け合う心、自己表現力を育成し、磨かれる自己への自覚を持たせ、自己の在り方を探究させる	A							
第2学年	基本的生活習慣の確立と自主的な行動力の育成	定期的に学習時間調査を実施して、生活リズムの変化を敏感に察知し、面談等を通じて適切に指導する	B	B	B	基本的な生活習慣を確立できているが、一部の生徒は遅刻・欠席が多く改善が必要である。 「できること」の質を向上させ、さらに高い目標を持つよう指導していきたい。 少しずつリーダーとしての自覚が出てきたが、次年度の体育祭に向けてもっと多くの生徒が活躍でき落ち着いた雰囲気の中で授業に臨んでいる。今後は上位層を伸ばすための取り組みを充実させたい。 学習時間がまだ足りないので、根気強く呼びかけたい。 一部の課題未提出生徒に対しては、居残り指導を行うなど今後も継続して指導していきたい。 課題研究や中間報告は手探りであったが、充実した内容のものを作ることができた。 課題研究の方に重点を置いたため、やや不足している。次年度の早い段階から指導していきたい。 生徒に気持ちの切り替えをさせ、学習する集団を作るための働きかけをしていきたい。	B	高校生活の3年間で、どの時期に何をするのが良いのか、どれぐらい勉強するばよいかなど、進路実現のための具体的なストーリーを作り、順序だてて実行させていくような指導の工夫が必要。
		清掃や時間の管理、規則の順守、挨拶などできることを徹底する	A					
		学年集会等で生徒会役員や学級委員にリーダーとしての経験を積ませ、修学旅行を見据えた集団作りを行う	B					
	全体的な学力向上と成績上位層の増加	授業規律を重んじ、学習環境を整備して授業のさらなる充実を目指す	B	B				
		家庭学習時間調査やスコラ手帳を活用し、学習時間の確保を図る	C					
		課題提出の徹底を図り、学年全体の学力向上を目指す。またレベルに応じた課題を出すなどして、成績上位者の層を厚くす	B					
	具体的進路目標の設定と実現に向けての準備	進路指導課と連携して、総合的な探求の時間の充実を図る	A	B				
		入試制度や科目の調査、大学訪問を通じて、具体的な大学のイメージを持たせる	B					
		志望校について考えさせ、早い段階で受験生としての態勢を整えさせる	B					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
第3学年	進路実現に向けた長期的な取り組みのために、規則正しい生活を目指す	学習を生活に取り組み、①起床②学習③就寝の3つの時間の固定化を図る	C	B	<p>基本的な生活習慣が固定化できている生徒もいたが、遅刻・欠席が続く生徒が増加していった。</p> <p>受験に対するスケジュール管理は全体的にスムーズに進めていくことができた。</p> <p>指導に従わない生徒の増加が目立った。</p> <p>学校行事はすべて実施できたことで、達成感を得た生徒が多かった。行事の適切な実施。</p> <p>学習に対する生徒のモチベーションの維持が難しかった。どうしても易きに流れてしまう雰囲気が出てくる。</p> <p>自分の進路に向けての準備は、計画的に取り組んでいた。合格することが目的になっている生徒の意識を切り替えさせることが課題である。</p> <p>合格後、生活態度が悪化する生徒が増加。</p> <p>推薦入試を活用していく入試スタイルが増加しているため、1、2年次からの計画的な指導が必要である。</p>
		スケジュール管理の徹底を図り、残り1年間の高校生活のビジョンを持たせる	B		
	一人ひとりが持っている力を100%出し切るための支援を行う	最上級生として模範となる生徒を育成する	B	B	
		学校行事や部活動等に全力で取り組み、やり切らせることで努力のあり方を学ばせる	A		
	生徒自身が過去最高の取り組みを行い、柏陵として過去最高の実績を上げる	類型毎で集会を開き、団体で目標に向かう姿勢を確立する	C	B	
		生徒に目標を持たせ、目標達成のための見通しを持たせる	B		
	人生が懸かった1年であることを認識させ、学習への優先順位を高める	C	B		
	8月までに基礎の定着・11月までに応用力・1月までに実践力を育てる	B			

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	<p>高校生活の集大成として充実した学校生活を送り、次のステージにはばたいてもらいたい。</p>

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・新教育課程について、観点別評価の充実を図り、指導と評価の一体化を促進させる。また、一人一台タブレットの環境に対応するため、職員自身が積極的にタブレットを活用する意識を持って臨みたい。
- ・学校行事の経験を活かして、生徒の社会性を育ませる。いじめ防止アンケートや学校生活アンケートの結果をしっかりと活用、また保護者・SC(スクールカウンセラー)・SW(スクールソーシャルワーカー)との連携を密にして、いじめの早期発見のための情報交換を丁寧に行っていく。
- ・生徒一人一人の自覚を促すとともに年間の進路行事を整理して、三年間を通した指導と内容の充実を図る。
- ・学校生活や社会生活における人権意識を磨いていく。また、職員に対して新しい情報を提供しながら、人権意識の向上を進める。
- ・広報活動を充実させて、情報発信を積極的に行い、中学校や地域への理解を進める。

評価項目以外のものに関する意見